

板橋区長期基本計画審議会(第5回)意見メモ一覧

No.	分野	意見
1	全般	「〇〇〇(施策のあり方)については困難な状況が多いので無理だ」「やめた方がよい」という意見が散見されましたが、本来は困難な状況を、一つひとつ改善する施策に結びつけて、「施策のあり方」を実現できるようにすべきと思います。 例:障がい者の地域移行は、様々な困難がある→移行は無理では、という発言になっています。
2	子育て	①障がい児保育の充実。(実態把握) ②待機児童数の把握については、認証・認可外・家庭的保育も含めた、実待機児童数をおさえる必要があると思います。
3	子育て	保育園におけるアレルギー、事故防止の質を高める施策が必要と考える。例えば私立保育園事業者のノウハウの意見交換、交流による切磋琢磨等も考えられる。
4	子育て	核家族化に対応する産前産後のサポート、特に障がいのある子どもを持つ母親のレスパイトができる産前産後の支援に取り組まれない。
5	教育	いじめ対応、児童虐待対応に対して、先生の資質に差があると思います。先生が忙しすぎることもあります。子どもにかける愛情の違いによるのではないのでしょうか。ハートのある先生、本当に子どもの好きな先生でいてほしいです。採用時(東京都)に見極めが必要だと思います。先生のメンタルヘルスケアも充実が必要だと思います。
6	教育	都立特別支援学校(小・中)の児童・生徒は、副籍制度があり居住地域の学校に副次的に籍を持ちます。特別支援教室との交流も含めて、小・中学校での積極的な取り組みをしてほしいです。
7	教育	人生において、困難を乗り越え、生き抜く力は欠かせません。保・幼・小・中で少しずつ我慢と忍耐力を養うようなプログラム作りが必要だと思います。
8	教育	統廃合について、小規模校が廃校されても仕方ないという立場で申し上げたのではありません。 統廃合の事ばかり注目されていますが、大規模校の扱いをもっと積極的にやっていかねば、いじめ、不登校の問題、教員の指導が行き届かない等の問題が出てくるということを申し上げたつもりです。教員の加配、教室の確保等をやらねばと思います。 統廃合については、単に小規模だからなくせということであってはならないと思います。適正な配置計画が必要です。 卒業生の一人として、また子どもたちも卒業した学校がなくなるのはつらいですが、配置として板五、板六、板十に加えて、豊島区立高松小も近く、さまざまな努力(町会をあげての)をしましたが残念ですが仕方のないことだと思います。 ですので、板五中や志村三小は地理的にも廃校にすべき学校ではないですし、是非、地元や卒業生の皆さんのご努力で生徒数がもう少し増加することを期待しています。
9	教育	読書についての柱を書き加えて頂きたい。特に読書アニメーションの活動を導入し、充実を図る必要があると考える。
10	教育	地域の活性化、一体感の創出、体力増進の観点から、学校別対抗競技に取り組むべきである。(例えば駅伝、サッカー、バスケット等)
11	教育	教員のスキルアップが肝要である。授業改善だけでなく、生活指導ができるベテラン教員のスキルをどう若手教員に伝え育てていくか。一番重要な視点なので、生活指導の事例、体験交流等積極的に取り組まれない。

No.	分野	意見
12	障がい・生活福祉	障がい者と高齢者の世帯が安心して暮らせるまちづくりが必要だと思います。高齢の親に何かあったときの障がい者の行き先がありません。多くは地方の施設に入所されるようですが、区内にもっとグループホームなどが必要だと思います。
13	障がい・生活福祉	精神障がい者への対応が一番困難です。地域での生活で、周辺住民の安心も確保しながら、ノーマライゼーションを遂行するための施策が必要だと思います。
14	障がい・生活福祉	民生委員の仕事は増える一方で、新しく民生委員になってくださる方がいません。孤立死発生時の民生委員の受けるダメージは大変なものです。多くの高齢者を担当する中で、十分な見守りは不可能です。ぜひとも「ゆるやかご近助さん」制度などを充実させて地域力アップをお願いしたいです。
15	障がい・生活福祉	生活保護世帯の子どもたちに対して、負の連鎖を断ち切るために無料(協働で)の塾を立ちあげバックアップしていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・統計的に中学から高校へ行かない子どもの割合が高い ・地域の力を活かした無料塾の設置(区所有の建物を使用)